

## 平成22年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

担当研究科名		工学研究科		授業の場所		桂 C1-107	
授業科目名		社会音響学		講義担当者 所属・氏名		工学研究科 伊勢 史郎	
配当 学年	修士	単位 数	2単位	開講 期	後期	曜時限	月3限 (13:00-14:30)
						授業形態	講義 ゼミ発表形式
〔授業の概要・目的〕							
<p>音はヒトにとって最も身近な実体としてのモノであり、技能が必要とされる道具である。音は身体的な技能と同時に、コミュニケーションを成立させる言語的な技能にも深く関与する。ヒトが集団を形成し、意思を共有し、社会を維持することがどのように可能なのか、建築空間や都市空間は本質的にどのようにあるべきか、音を基軸にしたヒトの本質を幅広い学問領域から眺め理解することを目的とする。</p>							
<p>【研究科横断型教育の概要・目的】 工学研究科ではモノづくりのための体系的な基礎を学ぶことが中心となるが、モノ（本講義では建築空間、音響空間が主な対象となる）が文化の中でどのように位置づけられるかを知るためには、文系における広い領域の学問を横断的に学ぶことが重要である。本講義は、暗黙知理論（科学哲学、心理学）、中心周縁理論（文化人類学）、記号論、過剰蕩尽論（経済人類学）、ミーム論（進化学）などの諸概念を音の身体性という側面と関連付けながら学ぶことにより、正しいモノづくりの方向性を見出すための指針を得ることを目的とする。本講義で掲げる諸テーマは学問体系としては未成熟で、個々に学ぶには難解な概念であるが、音というヒトにとって最も身近な物理現象を基軸に添えることにより、それらの一見無関係に見える文系的な諸概念の統合的な理解が促される。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>1. オリエンテーション 2, 3: 暗黙知理論: 科学哲学者マイケル・ポランニーが提案した暗黙知の概念を学び、ヒトが道具を使用する技能を身につけるとはどのようなことかを、心理学的、身体論哲学的に理解する。音が空間を把握するための道具であることの理解を基礎づける。 4, 5: 中心一周縁理論: 文化人類学者山口昌男が記号論に基づいて論じた周縁の概念を学び、文化生成のメカニズムを理解する。祭りにおける音の機能に注目し、ヒトの集団が音を発する行為の重要性について理解する。 6: 記号論: フェルナンド・ソシュールが提案した記号言語学を学び、記号として存在する知の状態と、暗黙知による知の生成過程を比較しながら理解し、知の生成モデルとしての記号論の限界を理解する。 7: 過剰一蕩尽論: 経済人類学者ジョルジュ・バタイユが論じた過剰を蕩尽することによりモノが循環するという経済モデルを学び、モノの交換に限らずイミの交換においても価値の流動を駆動する力の存在を中心一周縁理論と比較しながら理解する。 8, 9: ミーム論: 行動生物学者リチャード・ドーキンスが提案したミームについて学ぶ。技能を実体化した脳内の神経構造としてミームを理解し、暗黙知、中心一周縁、過剰一蕩尽などによって表現される文化モデルを脳科学的に解釈する。文化を自己組織化する脳神経モデルとしてミームが位置づけられることを理解する。 10: 自己組織化(カオス理論): 熱力学で提案されたエントロピーの概念を学ぶ。混沌から秩序が生成される空間としてカオスの縁ではエントロピーが時間の流れに逆らって減少すること、暗黙知を実現する場に生じる周縁制御の原理の概念でポランニーが説明しようとした存在論を理解する。 11: 水生類人猿説: エレイン・モーガンの水生類人猿説を検討し、音がヒトの身体にはたす役割の進化論的な意味を理解する。口頭による音声言語の獲得、体毛がなくなることによる毛づくろいというコミュニケーション方法の喪失など。 12: 演奏の技能と音の役割(総括1): 都市におけるコンサートホールの機能を総括的に論じ、文化を維持するための祭りのシステムの重要性、都市における周縁性、過剰性が文化の活性化に重要であることを理解する。 13: 言語の技能と音の役割(総括2): ヒトの集団がコミュニケーションを交わすための空間を作ることが建築という活動において本質的に重要であることを学び、音響空間を適切に設計することの重要性を理解する。 14: 全体のまとめとディスカッション: ヒトと他の動物との本質的な違いが何かを明らかにし、文化生成における技能獲得の能動性の重要性を理解する。</p> <p>講義形式とゼミ形式を併用する。ゼミ形式では2, 3名がグループを組み、上記テーマを選択する。グループは選択したテーマについて授業外で(1時間程度)ディスカッションを行い、そのテーマについて理解したこと、理解できなかったことをまとめ、15分間発表する。</p>							
〔履修要件〕							
自分の考えを深く追求し、見解を発言する能力および積極性が必要である。							

〔成績評価の方法・基準〕
出席回数、ゼミにおける発言内容から判断する諸テーマの理解度、レポートにより評価する。
〔教科書〕
快感進化論 ―ヒトは音場で進化する―、現代書館、伊勢史郎
〔参考書等〕
「暗黙知の次元」、「文化と両義性」、「ソシユール」、「利己的な遺伝子」、「幻想としての経済」、「呪われた部分」、「人は海辺で進化した」、「混沌からの秩序」、「ことばの起源」など。講義前に指示する予定。
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕
授業外において、講義で組まれたグループで、選択したテーマ(1～2)について1時間程度のディスカッションを行い、そのテーマについて理解したこと、理解できなかったことをまとめ、講義で15分間発表するための準備(レジメA4一枚程度)が必要となる。